

一般社団法人 教育システム情報学会

Japanese Society for
Information and Systems in Education

ニュース・レター No.231



発行日 2021年4月19日

発行所

一般社団法人
教育システム情報学会

発行者 柏原 昭博

〒162-0801

東京都新宿区山吹町358番地5

アカデミーセンター

URL <http://www.jsise.org>

E-MAIL secretariat@jsise.org



第46回全国大会案内・・・・・・・・・・	2	博士論文紹介募集・・・・・・・・・・	21
研究会開催年間スケジュール・・・・・・・・	4	研究会報告年間購読・・・・・・・・・・	22
第1回研究会開催案内・・・・・・・・・・	5	本学会研究会における	
第6回研究会開催報告・・・・・・・・・・	7	不適切な質問等への対応について・・	23
特集論文研究会開催報告・・・・・・・・	9	支部活動報告・・・・・・・・・・	24
関西支部産学連携研究会報告・・・・・・・・	10	学会 Twitter, Facebook のご案内・・	26
学生研究発表会開催報告・・・・・・・・	11	協賛・後援イベントのお知らせ・・	27
科研費申請支援について・・・・・・・・	14	会費納入のお願い・・・・・・・・・・	28
ラーニングイノベーショングランプリ		事務局より・・・・・・・・・・	30
アーカイブス公開について・・	16	会員専用ページの案内,	
特集号論文募集・・・・・・・・・・	17	入会のご案内,	
合同英文誌 ITEL 論文募集・・・・・・・・	19	新入会員のご紹介	





第 46 回 JSiSE 全国大会のご案内

担当者： 全国大会委員会

テーマ：ニューノーマル時代の学びのサステイナブル化を支える教育システム技術

<https://www.jsise.org/taikai/2021/>

- 開催日時： 2021 年 9 月 1 日(水) ～ 9 月 3 日(金)
- 会 場： 1 日目：広島市文化財団西区民文化センター&オンライン(メインイベント)
2, 3 日目：オンライン(プレカンファレンス, 口頭発表, インタラクティブセッション)
*変更の可能性あり
- 主 催： 一般社団法人教育システム情報学会

■ 全国大会の実施方法について

第 46 回全国大会のプレカンファレンス, 口頭発表(企画セッション/一般セッション), インタラクティブセッションはオンラインで実施することになりましたが, 参加者の皆さまが少しでも対面で交流ができますよう, メインイベントのみですが対面とのハイブリッドで実施できるように調整を進めております. ハイブリッドの導入に伴い, 大会のプログラムが例年とは異なる構成になっておりますので, ご注意ください. 詳細な実施方法につきましては, 決まり次第アナウンスいたします.

なお, 今後のコロナウィルスの感染状況によってはすべてオンラインに変更する可能性もありますので, ご留意ください.

■ 大会日程 (予定)

9 月 1 日 (水)	
午前	オープニング(会長・開催校挨拶), 基調講演
午後	企業セッション, 各種表彰, 大会メイン企画
9 月 2 日 (木)	
午前	プレカンファレンス
午後	一般・企画セッション, インタラクティブセッション
9 月 3 日 (金)	
午前	一般・企画セッション
午後	一般・企画セッション, インタラクティブセッション・学生研究特別セッション, クロージングセッション

(*) 大会日程は変更される可能性があります.

■ 大会までのスケジュール

投稿締め切りの後に、参加申し込みが開始されます。発表者には、参加申し込み開始時にメールでご連絡いたします。

- 2021年4月8日(木) 講演申込・投稿開始
- 2021年5月12日(水) 講演申込締切
- 2021年6月9日(水) 投稿締切
- 2021年6月10日(木) 参加申込開始
- 2021年7月8日(木) [発表者] 参加申込締切
- 2021年8月3日(火) [発表者以外] 参加申込締切(郵便振替・コンビニ決済)
- 2021年8月13日(金) 参加費納入締切(郵便振替・コンビニ決済)
- 2021年8月16日(月) [発表者以外] 参加申込締切(クレジットカード)

■ プログラム

プログラムは変更される可能性があります。最新の状況は大会 Web サイトに掲載いたします。

○ 企画セッション

1. SEL(Social and Emotional Learning)の高等教育への適応
2. 教育 DX を支える LA(Learning Analytics)の多面的検討
3. 先進的学習メディアを用いた新しい学習体験の創出
4. データサイエンス教育におけるモデルカリキュラムとプログラミング教育
5. ニューノーマル時代の医療者教育
6. 教育 DX と実世界指向学習環境
7. 次世代の人材を育成するため変革する教育システム

■ 講演論文集について

第45回大会より CD-ROM での配布を廃止し、Web による配布のみとしております。Web 版の講演論文集は、2021年8月23日(月)に大会参加者のみに公開され、2022年3月1日(火)に一般公開されます。

■ 企業展示・広告の募集

企業展示・広告を募集いたします。お申し込み先など、詳細は大会 Web サイトでお知らせいたします。

■ 協賛金のお願い

大会運営のための諸費用として使用させていただく協賛金を募集しております。ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。詳細は大会 Web サイトでお知らせいたします。

■ 大会事務局

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター
一般社団法人 教育システム情報学会 全国大会委員会
E-mail : jsise-desk@bunken.co.jp



2021 年度研究会開催スケジュール

2021 年度の年間スケジュールは下記の通りです。

詳細は、学会ウェブページ (<https://www.jsise.org/society/committee.html>) をご覧ください。

回	テーマ	開催日	会場	申込締切	原稿締切
第 1 回	DX 時代に向けた学習環境の変革／ヘルスケア分野における ICT 活用の高度化／一般	5 月 8 日(土)	オンライン開催	3 月 29 日 (月)	4 月 14 日 (水)
第 2 回	ICT を活用した学習支援と教育の質保証／一般	7 月 17 日(土)	北星学園大学	5 月 27 日 (木)	6 月 17 日 (木)
第 3 回	対面・オンライン授業支援／一般	9 月 24 日(金)	高知大学 朝倉キャンパス	8 月 5 日 (木)	8 月 25 日 (水)
第 4 回	身体的・認知的スキルに関わる支援技術／一般	11 月 13 日(土) または 11 月 14 日(日)	北陸先端科学技術大学院大学 金沢オフィス または 旭台キャンパス ハイフレックス (またはオンラインのみ開催) に対応予定	9 月 22 日 (水)	10 月 14 日 (木)
第 5 回	教育 DX と実世界指向学習環境／一般	2022 年 1 月中を予定	徳島大学 (状況に応じてオンライン開催)	未定	未定
第 6 回	Society 5.0 に対応したデータサイエンス教育の実践	3 月中旬	大阪教育大学柏原キャンパス (状況に応じてオンライン開催)	未定	未定
特集	未定	3 月中旬	大阪教育大学柏原キャンパス (状況に応じてオンライン開催)	未定	未定

研究会全般に関するお問い合わせは、学会事務局までお願いいたします。



2021 年度 第 1 回研究会 開催案内

担当者： 加藤泰久，北村士郎，仲林清，真嶋由貴恵，松居辰則，森本容介（研究会委員会）

■ テーマ

DX 時代に向けた学習環境の変革／ヘルスケア分野における ICT 活用の高度化／一般
※学習分析学会と合同で開催します。

■ 開催日

2021 年 5 月 8 日 (土)

■ 開催場所

【オンライン開催】 ※当初、会場での開催をご案内しておりましたが、変更いたしました。

■ 趣旨

本年度第 1 回研究会は、「DX 時代に向けた学習環境の変革／ヘルスケア分野における ICT 活用の高度化／一般」のテーマで実施いたします。

DX（デジタルトランスフォーメーション，Digital Transformation）とは、「企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること」（経済産業省）とされています。教育や学習においても DX は今後の重要な課題となります。DX の本質は、ICT の利活用をさらに高度化し、データ・技術・人間が共生して新たな価値を創出することです。そこで、本研究会では教育や学習における DX について多面的に議論したいと考えております。

「DX 時代に向けた学習環境」に関しては、DX 時代に向けた大学や企業における人材開発や組織マネジメントとの連携、学習コンテンツ設計、インストラクショナルデザイン、品質評価、学習者支援、ブレンディッドラーニング、インフォーマルラーニングなどの方法論、e ラーニングツール、システム、実践環境やモデルに関する提案・開発・応用など幅広いトピックに関する発表を募集いたします。さらに、教育における DX は学習データの活用が重要な課題となります。学習データの収集・分析・可視化に関する理論・技術・実践に関する幅広い発表を募集し、実効性の高い学習データの分析と利活用の可能性や課題についても議論したいと思っております。

「ヘルスケア分野における ICT 活用の高度化」に関しては、マルチメディアを活用した e ラーニングが多く医療系大学や病院などに導入され、膨大な知識の効率的な学習、新しい知識の定着、医療・看護技術の習得などで、高い学習効果が得られたことが報告されています。本研究会では、ヘルスケア分野において求められている高い実践能力をもつ人材の育成やナレッジマネジメント、学習者支援、学習コンテンツの設計、インストラクショナルデザイン、医療シミュレーション教材の開発

や実践、医療サービスの質保証ならびに質評価、eラーニング教材制作、臨床や教育機関での実践・運営環境、著作権処理に関する様々なトピックを扱い、この分野における専門職教育に必要な知識や技能を習得するための ICT 活用教育方法、さらにはその高度化の可能性について、議論を進めていきたいと思えます。

その他、教育システムに関する幅広い分野からの発表も歓迎致します。初中等教育、高等教育、企業教育などの分野から、多くの方々の発表をお待ちしております。

■参加費・研究報告について

2021 年度研究会より、研究発表及び研究会参加には、研究報告の年間購読または購入が必要となります。ただし、聴講のみを希望する学生会員は研究報告を購入する必要はありません。研究報告は電子化されています。年間購読されている方は、研究会開催日の約 1 週間前から会員専用マイページで研究報告ファイルがダウンロードできます。年間購読されていない方は、研究会の参加申込を通して購入できます。参加費と研究報告に関する詳細は、学会ウェブサイトをご覧ください。

■お問い合わせ先

松居辰則（早稲田大学、第 1 回研究会担当委員）

E-mail: matsui-t@waseda.jp（「@」の部分は、半角の「@」に変えて下さい）



2020年度 第6回研究会 開催報告

担当者： 西野和典（太成学院大学）、西端律子（畿央大学）、鷹岡亮（山口大学）、
浅羽修丈（北九州市立大学）、長谷川理（武蔵野大学）、尾崎拓郎（大阪教育大学）、
永田奈央美（静岡産業大学）、山本樹（明海大学）

■ テーマ：一人1台時代の情報活用能力育成

■ 開催日時：2021年3月21日（日）

■ 会場：オンライン開催

■ 概要：

第6回研究会は、2021年3月21日にオンライン（Zoom）で開催しました。2019年末、子どもたち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の実現に向けて、GIGAスクール構想が示されたことを踏まえ、「一人1台時代の情報活用能力の育成」をテーマとし開催しました。このテーマに関する研究発表が数多く報告されましたが、それに加えて、「学習支援システム」、「ハイブリット型授業」、「学習コンテンツ」をキーワードとする研究発表が多くありました。オンラインにもかかわらず、参加者は83名、発表件数は31件と多くの方にご参加いただきました。各セッションでは聴講されている方からの質問も多くあり、闊達な議論が行われました。これも参加された皆様のお陰です。

運営サイドの不手際が多くあったにも関わらず、当日のご発表・ご参加いただきました。深く感謝申し上げます。

■研究発表タイトル

- 拡張性を有する学習支援システムアーキテクチャに基づく分散マルチプラットフォーム学習環境の設計と試作
- ラーニングアナリティクスシステムの導入とその評価：京都市内の中高一貫校における生徒の意識調査
- ICTを活用した看護教育のための新しいオンラインコンテンツの開発
- ロボット講義における講義シナリオの適応的制御
- オンラインでのキャリア教育科目におけるSELの設計と進路選択自己効力の向上
- VR会議とテレビ会議利用時の周辺環境の違いにおける対話のしやすさ評価
- COVID-19の影響で実施したオンライン授業に対する児童生徒の認識とハイブリット型授業に対する教員の認識
- 学習活動の準備状態を高めるオンライン・バズセッションの要求と仕様
- 児童1人1台端末の授業実践に向けた小学校教員の認識

- 1人1台端末環境に対応した教員養成および教員研修のあり方の提案
- ELECOAにおける教材オブジェクト間通信削減方式
- ARマーカーにより人物と場所を結び付ける歴史学習支援システムの構築
- 中等教育向けVR校外学習用史跡学習コンテンツの制作と評価
- 誤答を含めた力学概念調査（FCI）の回答分析の試み
- 複数シチュエーションでのMIF誤概念解消を目的とした学習手法の開発と評価
- アナロジーと操作を活用したメンタルローテーション能力向上のための学習支援システム
- 一次方程式の解法を題材とした「教えることにより学ぶ」学習支援システムに関する研究
- 視聴覚刺激の呈示によるタスク処理中の予期的時間評価の変化に関する検証
- 三角ロジックモデルに基づく論理組立演習の拡張と実験的評価 ー情報不備化，無意味綴り化，非常識命題化
- 他者視点の認知を促すプレゼンシナリオ設計支援システム
- VRを利用したプレゼンテーションセルフレビューシステムの評価
- 運転シミュレータのシナリオ制御モデルの評価
- 安全な走行領域を考慮した段階的危険予測学習支援システムの開発
- 初等力学問題を対象とした問題間構造組立演習システムの設計開発と実験的評価
- CNNを用いた音高想起時の脳波デコーディングの試み
- 透視図法の学習を目的としたスケッチ学習支援システムの構築
- シェアリングエコノミーのビジネスモデルを主題とした学習手法
- 外国語学習・デジタル教科書を用いた遠隔授業支援と学習ガイド機能の構想
- 肢体不自由者のための自立活動支援アプリケーション開発
- 発達障害のある子どもへのプログラミング教育の提案 ー算数の文章題解決につなげるためにー
- デンマークにおける若者へのチャットキャリアカウンセリングとカウンセラーの能力開発



2020 年度 特集論文研究会 開催報告

担当者： 学会誌編集委員会幹事 後藤田 中（香川大学）

- テーマ： Society 5.0 に向けたオンライン学習および AI・数理・データサイエンスと人材育成支援に関わる教育システム
- 開催日： 2021 年 3 月 20 日（土）
- 会場： オンライン (Zoom)
- 発表件数： 26 件（全て閲読希望）
- 参加申込者数： 108 名
- 概要：

特集論文研究会では、昨年度の開催報告のご紹介どおり、今年度からより良い閲読コメントをお渡しできるように、当日の発表内容を録画させていただき閲読させていただくことになりました。

1) 閲読コメント担当者は、1 編に対して 2 名

① 閲読者に事前に論文を送付

② 閲読者は当日の発表あるいは録画映像を踏まえて閲読コメントを作成

2) 閲読コメントは 2021 年 4 月 10 日（土）までに送付

昨年度まで第 6 回研究会と特集論文研究会は同日開催でしたが、今年度は連日開催となりました。本研究会は、オンラインの 3 会場で実施し、Zoom メインルームを A 会場とし、B・C の 2 会場をブレイクアウトルームで用意しました。各会場を午前 1 セッション、午後 2 セッションで、合計 9 セッションの開催となり、例年にも増して多くの参加者の事前申し込みもあり、大変盛況となりました。

本特集論文研究会は、論文特集との連動企画です。学会誌特集論文の案内を学会 Web サイト (https://www.jsise.org/journal/cfp2021_offer.html) にて掲載しますので詳細はそちらをご確認ください。本研究で未発表の研究内容もご投稿可能ですので、皆様のご投稿を心よりお待ちしております。

新型コロナウイルスの影響により、引き続き、感染予防のため、参加者のみなさまの健康と安全を最優先にオンライン開催となりました。9 つのセッションの座長には、有意義な議論を導いてくださいました。審査委員には、各セッションにて受賞選定の評価をいただきました。閲読委員の皆さまには、当日、事後も含めて、原稿や映像を丁寧に読み込み、閲読コメント作成に尽力いただき感謝しております。

最後に、本研究会の会場準備は、香川大学で主体的にあたりました。同大学の学生スタッフの皆さま、また、浅羽 修丈先生（北九州市立大学）にもオンラインの会場を運営いただきました。ここに謝意を表します。



2020 年度関西支部産学連携研究会報告

担当者：溝淵昭二（近畿大学），原田ゆかり（株式会社ワークアカデミー）

■テーマ：DS・AI リテラシー教育

■開催日：2021年3月23日（火）

■会場：Zoom ミーティング

■概要：

2021年3月23日に Zoom ミーティングにて、「DS・AI リテラシー教育」をテーマに2020年度関西支部産学連携研究会を開催いたしました。当日は20名の方々にご参加いただきました。参加者の内訳は、企業や団体の方が4名、教育機関の方が16名でした。

本研究会の前半は、エヌビディアの廣岡信行様より AI の応用事例と教育支援についてご講演いただきました。続く後半は、エヌビディアの鈴木博文様にも加わっていただき、ご講演内容についての質疑応答を行いました。ご講演では、AI の応用事例とともに、エヌビディアが提供されている教育コンテンツをご紹介いただきました。エヌビディアと聞けば、GPU を連想される方が多いかと思いますが、実はそのようなハードウェアだけでなく、ソフトウェアにも注力されているとのことでした。ご紹介いただいた教育コンテンツはその一つであること、その中にはクリエイティブ・コモンズ・ライセンスのものも含まれているとのことでした。さらに DS に関する教材も直近にリリースされたようで、まさに、今回のテーマに即した情報をご提供いただけたと考えております。最後に、一部ではありますが、今回のご講演の中でご紹介いただきましたコンテンツの URL を記しておきます。ご興味があればぜひご覧ください。

動画（URL の後にキーワードを列挙いたします）

https://www.youtube.com/watch?v=07HkkklmIqA	AI 事例 GTC 2020 I AM AI
https://www.youtube.com/watch?v=2nS3C8z2pZo	Jetson 事例
https://www.youtube.com/watch?v=DeDV17HMijQ	NVIDIA Jarvis with GauGAN
https://www.youtube.com/watch?v=7fcDJDd2P-8	I am AI (StyleGAN, Audio2Face, DLSS, GauGAN)
https://www.youtube.com/watch?v=eFK7Iy8enqM	NVIDIA MAXINE

NVIDIA AI PLAYGROUND

<https://www.nvidia.com/en-us/research/ai-playground/>

NVIDIA Teaching Kits

<https://developer.nvidia.com/teaching-kits>

NVIDIA ディープラーニング AI オンラインコース

<https://www.nvidia.com/ja-jp/deep-learning-ai/education/>

これから始める人のためのディープラーニング基礎講座

<https://www.slideshare.net/NVIDIAJapan/01-1000-nvdlsl8yamasaki>





2020 年度学生研究発表会開催報告・優秀賞のお知らせ

担当者： 人材育成委員会

2020 年度 JSiSE 学生研究発表会は、2021 年 2 月末から 3 月初旬にかけて、北海道、北信越、関東、東海、関西、中国、四国、九州・沖縄の地区で、オンラインで開催されました。発表総件数は 125 件、来場者数は 355 名と対面と遜色なく、各会場とも盛況な研究発表会となりました。各地区の優秀な発表については、優秀発表賞、優秀ポスター発表賞として選定されています。

各地区の学生研究発表会の参加者数および発表者数、ならびに受賞リストは以下の通りです。

学生研究発表会開催状況

地区	地区担当者	開催日	発表件数	参加者数
北海道	山本 裕一（北海道大学）	2021 年 3 月 5 日（金）	12	33
北信越	森 祥寛（金沢大学）	2021 年 3 月 1 日（月）	13	30
関東	山本 樹（明海大学）・ 辻 靖彦（放送大学）	2021 年 3 月 8 日（月）	19	63
東海	宮崎 佳典（静岡大学）	2021 年 3 月 6 日（土）	9	23
関西	河野 稔（兵庫大学）	2021 年 3 月 4 日（木）	16 17（ポスター）	69
中国	林 雄介（広島大学）	2021 年 2 月 27 日（土）	6 13（インタラクティブ）	31
四国	米谷 雄介（香川大学）	2021 年 3 月 7 日（日）	11	76
九州・ 沖縄	石塚 丈晴（福岡工業大学短 期大学部） 小渡 悟（沖縄国際大学）	2021 年 3 月 1 日（月）	9	30

優秀発表賞・優秀ポスター賞

地区	受賞者氏名	受賞者所属	タイトル
北海道	川越 颯亮	公立千歳科学技術大学	レポート内の話しことばに着目したグループチェック授業モデルの提案と試行
	長野 大智	函館工業高等専門学校	証明問題解決支援システムにおけるダミーカードの自動生成
	嶋村 拓海	釧路工業高等専門学校	中学校新学習指導要領における双方向コミュニケーションを伴うプログラミング学習が可能なスマートハウス型教材の開発

北信越	上村 亮	信州大学大学院	成長を表す評価語の抽出と音響特徴量からみる歌声の成長
	渡邊 怜	長岡技術科学大学	単語中の文字順変更を含む文理解時の脳波計測
	西澤 和輝	長野工業高等専門学校	歌唱指導教育のための呼吸情報活用の基礎検討
	細屋 静花	東北学院大学	視覚障害児向けのプログラミング教材開発
関東	古澤 嘉久	早稲田大学大学院	生体情報を用いた学習者の心的状態推定モデルにおけるラベリングコスト削減の試み
	須藤 敬仁	電気通信大学	ロボットを用いた英文読み合いにおける Learning by Teaching 支援に関する研究
	長嶋 啓太	千葉工業大学大学院	シェアリングエコノミーのビジネスモデルを主題とした学習手法
	奥津 暁夫	大阪府立大学	視線・セマンティックスウェアな教材オーサリングシステムと視線計測システムの開発
	前田新太郎	東京工芸大学	競争型知識共有プラットフォームを用いたロボットプログラミングによる学習支援システムの検討
東海	中村 亮子	静岡大学	オンライン英文リーディング学習のための学習者用語彙推定アルゴリズムの改良
	加藤 駿弥	静岡大学	数式変形依拠公式提示アプリケーションの機能拡張への試み
関西	近藤 竜生	京都教育大学大学院	メンタルローテーション課題時の視線移動の特徴の考察
	清水菜々子	和歌山大学大学院	CNN を用いた異なる音高を想起したときの脳波の識別
	清水 俊匡	大阪府立大学	学習者の主体的な振り返りを促す自己調整学習支援システムの開発
	岡田 祐佳	京都教育大学	割合の文章題の指導について-視線移動に着目して- (*)
	高橋 晴香	京都教育大学	小学校算数科の文章題解決における図の効果的な活用 (*)
	鏡山 虹介	龍谷大学	Moodle プラグインによる自動採点コンセプトマップ (*)
中国	森田 博人	広島工業大学	自由記述からの講義キーワード検出と主成分分析を用いた学習者の理解度評価
	山口 耕平	広島大学	多様な算数文章題の作問活動を実現する Tri-Prop-Scrabble の設計・開発 (*)
	嶋川 晋	広島大学	算数文章題の作問学習における段階的演習システムの設計・開発 (*)

	河口 祐毅	広島大学	映像講義の振り返りのためのキットビルド概念マップにおける命題説明順序に基づく再視聴推薦機能の設計・開発 (*)
四国	磯山 敦	香川大学	ゴースト学習者参加による質問行動活性化支援システムの開発とその効果
	森 雅史	高知大学	遠隔合同授業における見取りを支援する自動俯瞰撮影装置の検討
九州・ 沖縄	古田 とわ	熊本県立大学	地域創生を指向した阿蘇観光活性化アプリに関する検討
	仲宗根英人	沖縄国際大学	熟語に注目した漢字学習支援システムの提案

*優秀ポスター発表賞



科研費申請支援（研究活動スタート支援）について

人材育成委員会 小西達裕（静岡大学）、布施泉（北海道大学）、光原 弘幸（徳島大学）

教育システム情報学会では、次代を担う若手研究者の自立、研究活動の活性化を積極的に支援することを主旨として、科研費申請支援制度を2018年10月より実施しています。

本学会の理事等を中心に、当該分野の科研費審査や獲得経験を有する複数のシニア研究者（匿名）が、提出された申請書に対して、主張点や論旨の明確化、焦点化など、審査員に上手に伝えアピールする視点から、採択に向けたコメントを書面で提供するものです。

■ 今回の募集は、「研究活動スタート支援」が対象です。若手研究および基盤研究（C）の申請支援については本年9月ごろの募集を予定しています。

「研究活動スタート支援」は、我が国の研究機関に採用されたばかりの研究者や育児休業等から復帰した研究者等が行う研究をサポートするものであり、これらの研究者の当座のスタート支援に資することが期待されます（https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/22_startup_support/koubo.html より抜粋）。

申請書評価の多様な見方に触れて頂くためにも、学会としてまとめることはしないでコメントータからのコメントをそのまま提供します。これらを参考材料として申請者ご自身の判断の下で取捨選択しての申請書のブラッシュアップに役立てて頂く主旨のものです。（学会およびコメント提供者は採択に関する責任を負うことはできませんので、予めご承知ください。）

主として以下の分野を対象にすることにしていますが、JSiSEが学際的な領域を対象にしていることから、他の分野でもできるだけ柔軟にお受けしたいと考えていますので、下記お問い合わせ先までお尋ねください。

■対象分野：

- ・「大区分A」「中区分9：教育学およびその関連分野」
 - ・09070 教育工学関連
 - ・09080 科学教育関連
- ・「大区分J」「中区分62：応用情報学およびその関連分野」
 - ・62030 学習支援システム関連

■ 申請者は学会員であることが必要です。

■ 大まかなスケジュールは、以下の通りです。ご所属機関により提出時期が異なることを踏まえ、提出期間に幅を持たせています。

○ 3月中旬～4月上旬頃：エントリー

下記提出先まで電子メールにて、代表者氏名・タイトル・応募領域等の基本情報をお知らせください。

サブジェクトは「科研費申請支援（研究活動スタート支援）」を含む文字列でお願いします。

※ エントリーがなくても申請は随時受付いたしますが、事前にエントリー頂ければコメントータに書類を迅速にお送りできますので、結果の返送も早くなります。

○ 3月下旬～4月中旬頃：申請書提出

申請書のファイル（MS-Word または PDF 形式）を下記提出先までお送りください（予算明細などの詳細まで埋めていただく必要はありませんが、コメントを提供する観点からは、ある程度内容が固まっている段階でご提出いただくのが望ましいと思われます）。

【提出があり次第、コメントータに申請書を送付します。】

○ 申請書ご提出後随時：コメント送付

【各コメントータから提出があり次第、コメントをお返します。】

事前エントリーがあった場合申請書提出から1週間前後、ない場合10日前後の返信を予定しておりますが、事情により遅れる可能性もございますので余裕をもってお申込みください。

■ 提出先・お問合せ先：jsise-y-support@googlegroups.com まで

※ 学会及びコメントータは申請書に記載された内容について守秘義務を負い、第三者に情報を漏らすことはありません。

※制度改善のためのアンケートにお応え頂くことがございますので、ご協力をお願いいたします。



ラーニングイノベーショングランプリ・アーカイブス公開

担当者： 教育システム情報学会 産学連携委員会 委員長 松浦 健二

産学連携委員会から JSiSE 会員の皆さまへご案内いたします。

JSiSE が 2016 年度より共催している産学連携イベントであるラーニングイノベーショングランプリについて、アーカイブスが公開されました！

ラーニングイノベーショングランプリのサイト（アーカイブスが追加されました）

URL : <https://ligp.gingerapp.co.jp/>

これまでに受賞された研究がアーカイブスとしてまとめられており、本学会における産学連携の一つの方向として確認できるかと思えます。紹介動画もございますので是非ご確認ください。

また、今後詳細にアナウンスいたしますが、本年度も開催いたしますのでその参考としてもよろしいかと思えます。

ラーニングイノベーショングランプリは、学术界での学習・教育におけるラーニングテクノロジーに関する研究成果やその芽生え期の研究を産業界が評価する、年に一度のコンペティションです。大学等の研究は、普段アカデミックな評価を受ける機会が多いのですが、本イベントでは産業界も普段目を向けていないような研究や、産業界から見て価値のある潜在的な研究も評価されます。応募対象は、高等教育機関（大学・大学院・高等専門学校等）の研究室（チーム）です。

皆様の研究成果を論文評価とは異なる目で見ただけの機会であり、毎年多くの作品が応募され、産業界からのフィードバックを得られております。

是非今後のご応募をご検討ください。



2022 年度発刊 特集号論文募集

担当者： 学会誌編集委員会委員長 瀬田 和久（大阪府立大学）

「 Society 5.0 に向けたオンライン学習および AI・数理・データサイエンスと
人材育成支援に関わる教育システム 」

論文投稿締切：2021 年 6 月 1 日（火）（予定）

2022 年 4 月 1 日 発行（予定）

新型コロナウイルスへの社会的対処として、サイバー空間の積極的な活用がなされています。本特集号では、転換が加速する「Society 5.0 時代に向けた教育システム」に関する論文を募集いたします。「Society 5.0」では、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させるシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会が提唱されています。新型コロナウイルスの影響下でのオンライン学習の実践は、まさに Society5.0 社会に向けた経験知を醸成しています。フィジカル空間に主軸があった学習活動がサイバー空間にも広く展開され、学習履歴のビッグデータ収集・蓄積・分析が加速することで、フィジカル空間での学びに対しても新しい価値創造の機運が高まっています。そのような分析に携わる AI・数理・データサイエンスに関わる知識とスキルを身に付けた人材育成も急務であり、それに関わる教育システムも、新しい社会への転換に強く寄与するものです。

1. 対象分野

開催延期となった東京五輪に向けたスポーツテック導入に基づく教育（トレーニング）、また自治体では、コロナ感染の対処も含めオープンデータを活用した災害・防犯教育のシビックテックも見られ、幅広い分野の教育にレジリエントな社会の実現に向けたデジタルトランスフォーメーション(DX)が期待されます。Society 5.0 時代への転換を見据え、高等教育機関等における AI・数理・データサイエンス教育等に関わる論文に加え、リカレント教育も含めた、今後の「Society 5.0」に向けた教育発展に寄与するオンライン学習の実践の論文を募集します。また、先行的な取り組みとしての情報教育（IoTを含むプログラミング、カリキュラム設計等）、さらに、遠隔医療、農業、建設業も含めた幅広い分野の教育において、先端技術（5G・ロボット・ドローン・ブロックチェーン等）の活用を見据えた人材育成の支援の取り組みに関する教育システムの論文も広く募集いたします。

2. 論文種別

すべての種別（一般論文、実践論文、ショートノート、実践速報）の論文を募集いたします。なお、査読を通して、異なる種別での採録となる場合があります。また、内容により一般号掲載論文へ変更する場合があります。

3. 投稿要領

教育システム情報学会学会誌原稿執筆要領に準じます。詳細は教育システム情報学会の Web ページで確認してください。Web 投稿の際には、以下の点にご注意ください。

- 「投稿種別」で「特集号」を必ず選択してください。
- 特集論文研究会(2021年3月20日(土))で発表を行った方は、投稿情報入力の際に「事務局への連絡事項」の欄に、特集論文研究会での発表題目と発表番号を記載してください。

4. スケジュール

論文投稿締切： 2021年6月1日(火) (予定)
採録通知予定： 2021年11月上旬 (予定)
学会誌掲載： 学会誌Vol. 39, No. 2, 2022年4月1日発行 (予定)

5. 特集号編集委員会

委員長： 瀬田 和久(大阪府立大学)
副委員長： 村上 正行(大阪大学)
筆頭幹事： 松田 憲幸(和歌山大学)
幹事： 後藤田 中(香川大学), 田中 孝治(金沢工業大学)
幹事補佐： 近藤 伸彦(東京都立大学), 山元 翔(近畿大学)
委員： 学会誌編集委員

6. 問い合わせ

全般： 後藤田 中 (香川大学) E-mail: gotoda.naka@kagawa-u.ac.jp
(「@」の部分は、半角の「@」に変えて下さい)

Web投稿： 編集事務局
電話： 03-5389-6492
E-mail: jsise-edit@bunken.co.jp
(「@」の部分は、半角の「@」に変えて下さい)
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-4-19 株式会社国際文献社 長澤氏



Information and Technology in Education and Learning (ITEL)

論文募集 [<https://www.j-itel.org>]

日本教育工学会（JSET）との合同英文誌 ITEL（Information and Technology in Education and Learning, <https://www.j-itel.org>），ITEL Vol.1 が 2021 年 4 月中に公開予定です。2 月 19 日時点での採択率は、Regular Paper 50%、Practice Paper 50%、Development Paper 50%で、全論文種別の採択率は、43.8%（採択数 7 本／投稿数 21 本（査読中を含む））となっています。

この ITEL では、我が国における教育工学・教育システム情報学の国際的な発信力を強化するとともに、国際的な共同研究・研究交流のプラットフォームになることを目指しています。ITEL は、J-STAGE をプラットフォームとしたオープンアクセスジャーナルです。研究対象は、教育システム情報に関連した領域全般はもちろん、様々な教授学習場面のための方法・技術に関する基礎研究・開発研究・実践研究等も含まれます。

4 月中に投稿された原稿に関しては ITEL Vol.1 に掲載される可能性があります。また ITEL Vol.2 への掲載論文も募集しています。投稿後、7 か月までには、採録の可否を決定・通知する予定ですので、短期間で、革新的な研究成果、ユニークな実践等を世界に向けて発信するために活用していただければ幸いです。

- 論文種別： 一般論文（Regular Paper, 基本 8 ページ）, 実践論文（Practice Paper, 基本 8 ページ）, システム開発論文（Development Paper, 基本 8 ページ）, ショート論文（Short Paper, 基本 4 ページで最長 6 ページまで）
<これまでのショートノート（Short Note）と実践速報（Report on Practice）を含みます>
- 投稿締切：1 年中投稿を受け付けています。
- 投稿要件：
 - 論文は他学会において査読中でないこと、そして、その主要部分が未発表であること。ただし、国際会議、学会の大会、研究会等で口頭発表した内容をまとめたものは投稿することができます。
 - 投稿者は本会会員である必要はありませんが、本会会員あるいは JSET 会員である場合には掲載料に会員の価格が適用されます。投稿者が 2 名以上の連名の場合は、そのうち少なくとも 1 名が会員であれば、掲載料に会員価格が適用されます。
- 原稿執筆要領：ITEL Web サイトに、執筆要領（Author Guidelines）等がアップされています。
- 投稿方法：< [ITEL 電子投稿システム] https://iap-jp.org/j-itel/journal_e/ >
 - ITEL Web サイト上から、電子投稿システムにログインして投稿を行って下さい。

- 初めて電子投稿システムを利用する場合は、まず利用者用 ID の発行手続きを行って下さい。
- 投稿論文は、論文執筆用テンプレートファイルを用いて PDF ファイルに出力して提出して下さい。
- 投稿論文は、投稿前にできるだけ英文校正（Proofreading）を受け、証明書提出を推奨しています。

○ 査読方法：

- 投稿論文の査読は、JSiSE 英文誌と同様に、シングルブラインド制で行われます。
- 査読者は 2 名（Short Paper は 1 名）で、査読回数は 2 回となります（著者照会は 1 回のみ）。
- 評価項目は、Originality（新規性）、Usefulness（有用性）、Reliability（信頼性）、Presentation（明瞭性）の 4 項目となり、JSiSE 英文誌と異なり、査読中に投稿論文の種別変更はありません。
- 投稿者の希望に基づき、JSiSE 英文誌と同様、日本語で査読コメントを受けることもできます。



「博士論文紹介」の原稿募集について

担当者： 学会誌編集委員会委員長 瀬田 和久（大阪府立大学）

コミュニティプラザ「博士論文紹介」で一同に紹介

これまで学会誌のコミュニティプラザ「博士論文紹介」では、最近2年程度の間には博士号を取得された方に委員会より依頼し、毎号お一人ずつ寄稿していただきました。一方で、日本のあらゆる研究分野において博士号取得者が減少傾向にあるなか、本学会分野で活動する博士号取得者また読者の立場を中心に考え、現状の紹介方法で良いか学会誌編集委員会において議論を行って参りました。この結果、毎号から年1回の紹介企画へ移行し、各巻のNo. 3（7月1日発刊）に集約して紹介することといたしました。寄稿依頼を年度末前後の3～4月頃とすることで、複数の博士号取得者を一同に紹介できることとなり、博士号取得者の研究テーマの動向を読者の皆様が一目で把握することが可能になります。博士号取得者同士が互いを知る機会として、交流を深めるきっかけとしても期待しております。

今後、毎年度末に、本誌や学会のニューズレターなどを通じて、募集を行っていく次第です。お近くに博士号取得者や、過去あるいは今後学会誌掲載時に博士号取得予定者がいらっしゃいましたら、ご本人または、指導教員の立場によらず、以下の教育システム情報学会誌編集委員会のメールアドレスまで、お気軽に情報提供いただけますと幸いです。

スケジュール

原稿締切： 2021年4月23日（金）（予定）
学会誌掲載： 学会誌Vol. 38, No. 3, 2021年7月1日発行（予定）

執筆要領

執筆要領&原稿テンプレート：
https://www.jsise.org/journal/doc/community_plaza_tmplate.doc

執筆例（34巻4号，pp. 324-326）：
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsise/34/4/34_340404/_pdf/-char/ja

問い合わせ等

問い合わせ / 原稿提出先： 教育システム情報学会誌編集委員会
担当委員： 後藤田 中（香川大学）
E-mail： editors@jsise.org
（「@」の部分は、半角の「@」に変えて下さい）



研究会報告年間購読の申し込みについて

研究会報告は、2016年度からは印刷媒体での研究会報告は廃止し、オンライン上でタイムリーかつオンデマンドな閲覧が可能となるように、研究会報告を電子化しています。保管などの手間もなく、大変便利に活用できるようになっております。

是非、研究会報告の「年間購読」のお申し込みをご検討いただければ幸いです。研究会当日も電子媒体として販売する予定ですが、年間購読がお得になっております。

- ・年間購読:4,000円(定例研究会年6回、特集研究会1回、計7回分を含む)
- ・当日販売:1冊1,000円

新規での「年間購読」申込みにつきましては、年会費をお支払いいただく前に会員種別変更申込をお願いします。以下の手順でお申し込みください。すでに年間購読をいただいている方は手続き不要です。

- 1) 年会費納入手続きの前に、下記フォームにて事務局 (secretariat@jsise.org) まで年間購読申込をしてください。

=====

※研究会報告年間購読希望

会員番号 (お分かりであれば) :

お名前 :

所属 :

連絡先 e メールアドレス :

=====

- 2) 手続き終了後、事務局より会員種別変更完了のご連絡を差し上げます。
- 3) マイページから年会費と合わせて年間購読費をお支払いください。

※年会費納入後に「年間購読」を申込みご希望の場合は、事務局 (secretariat@jsise.org) までご連絡ください。年間購読の請求書をお送りし、会員種別変更の手続きを進めさせていただきます。



教育システム情報学会研究会における 不適切な質問等への対応について

教育システム情報学会 研究会委員会

教育システム情報学会研究会は、教育システム情報学に関わる最新の研究や実践に関する情報交換および意見交換を通して、学会の発展、ひいては当該研究分野の発展において極めて重要な役割を果たしています。さらに、専門領域の近い研究者による緊密なネットワークが大学や研究機関を越えたところで構成されているため、若手研究者の発掘や育成、今後社会に出る学生の教育の場としても、研究会の重要性は非常に大きくなっています。

こうした研究会においては、様々な立場の参加者が自由闊達に議論できることが最も重要です。一方で、意見交換や育成・教育の範囲を大きく逸脱して、研究方法や研究分野、さらには発表スタイルなどを問題とする質問等を執拗に行い、発表者や聴講者に不快感や不利益を与えることは厳に慎まなければなりません。こうした問題が放置されると、研究会への参加だけでなく、学会活動全般、さらには教育システム情報学への関心の拡大に大きな悪影響を及ぼします。

教育システム情報学会研究会においては、意図の有無に関わらず、正当な根拠なく相手に不利益を与え、相手の尊厳を侵害する行為があった場合に、研究会担当委員および座長担当者が、質問の制止や質問者に退席の指示を行えるものとしています。研究会の参加者だけでなく、研究会に関連する全ての人々が快適で安心して研究会に寄与できる環境を維持し、研究分野のさらなる発展と、これを通じた社会貢献を行うために、研究会における皆様の建設的な質疑へのご協力をなにとぞよろしくお願いいたします。

北信越支部より活動報告

北信越支部学生研究発表会開催報告

担当者： 香山瑞恵（信州大学）
 山川 修（福井県立大学）
 森 祥寛（金沢大学）

2020年度北信越支部学生研究発表会は、3月1日（月）に、福井県立大学がホスト校となり、Zoomを用いたWeb会議の形式で開催しました。今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、集合型の取組はほぼ開催されず、JSiSEにおいても年次大会を始めとして学生研究発表会も、企画当初からWeb会議による開催となっていました。昨年度のように、急に変更されるのと違い、最初からWeb会議による発表と分かっていたら、それはそれで、学生にとっては良い発表の機会となったのだらうと考えています。

北信越支部では、毎年、博士課程後期の学生を対象として、「研究成果を磨く」と題したワークショップも併せて開催しています。今年度は1件の申込みがあり、「視覚情報を活かしたプログラミングの導入教育」というタイトルで発表を行っていただきました。45分という時間を上手く使って、発表と質疑応答をこなしてもらえたようです。学生研究発表には、13件の申込みがありました。申込みは、北信越の他、東北、関東からもあり、この中には、以前、「研究成果を磨く」にて発表をしてくださった方が教員となり、指導を受けている学生が含まれています。これまで、回を重ねて、実施してきたワークショップが、良い方向に回り始めた成果といえます。

なお、今回の発表会では、約30名程度が参加し、最終的に優秀発表4名、その中から年次大会への推薦1名を選ばせていただきました。

昨年度の報告では、「…その頃には、間違いなく、新型コロナウイルスの感染拡大も収まり、多くの北信越支部の先生や学生と顔を合せて、発表や議論ができることを願っています。」などと結んだのですが、残念ながら、Web会議システムを用いた、遠隔での発表となりました。とはいえ、この1年間、さまざまな会議、シンポジウムなどを、遠隔での開催を経験すると、これはこれで悪くないことが、実感として分かってきました。一方で、食事会や飲み会などを含む、インフォーマルな部分での話し合いができないことは、単に残念であるだけでなく、交換できる情報の質と量が格段に減ったと感じさせます。学生研究発表会をオンラインで開催してしまうと、こういった交流の場の重要性を、学生に学んでもらう機会を与えられないのが残念でなりません。この点も含めて、来年こそは、顔を合わせて開催したいものです。

四国支部設立のお知らせ

四国支部 支部長 岡本 竜（高知大学），副支部長 後藤田 中（香川大学）

これまで四国地区では，本学会で活動する研究者が決して少なくは無いにも関わらず，長らく支部が存在しない状況でした．学会としての活動に拘らず，少なからず研究者間の交流はありましたが，この度，新たに四国支部を設立する機会を頂き，学会活動としてもご支援を頂けることになりました．

学生研究発表会については，これまでも毎年，四国地区での開催を行っており，それを機会として交流を深める機会もありました．今後はこの度のコロナ禍に伴うニューノーマルを意識した，若手研究者の新しい試みの実験フィールドを提供する「試部」として，学生研究発表会をはじめ、四国4県の研究者相互の連携，指導学生の教育などの更なる活性化を目指します．

現在，体制を含め色々と調整中ですが，初回の支部総会を本年度中に開催する予定です．皆様のご支援を賜りますよう，宜しくお願い申し上げます．



Twitter アカウントの紹介

2016年8月下旬より、全国大会開催に合わせて学会の公式 Twitter アカウントを開設しました。本アカウントは原則として当学会の広報を目的とした配信専用としております。本学会へのご質問・お問い合わせは、学会事務局 (secretariat@jsise.org) へお願いします。また、Facebook アカウントとの連携も行っており、Facebook ページの投稿が Twitter にも流れますので、ぜひご活用（フォロー）ください。

<https://twitter.com/JsisePr>

◇ 2021年3月29日現在、フォロワー数 253 アカウント



Facebook ページもご覧ください

教育システム情報学会では Facebook ページを運用しています。本ページでは、

- ・論文・発表募集
- ・本学会に関連するイベントの情報

などを、いち早くお届けします。ぜひ、ご覧下さい。

Facebook ユーザの方は、ぜひ、「いいね」をお願いいたします。

<https://www.facebook.com/jsise.org/>

◇ 2021年3月29日現在、いいね 439 件、483 人フォロー



他団体 協賛・後援イベントのお知らせ

協賛「2021 年度工学教育研究講演会」

日時：2021 年 9 月 8 日（水）～10 日（金）

会場：信州大学長野（工学）キャンパスとオンラインで併催

後援「第 32 回全国高等専門学校プログラミングコンテスト」

日時：2021 年 6 月 26 日（土）

会場：秋田総合生活文化会館・美術館 アトリオン

協賛「World Conference on Computers in Education 2022 (WCCE 2022)」

日時：2022 年 8 月 21 日（日）～24 日（水）

会場：広島国際会議場

〒730-0811 広島市中区中島町 1 番 5 号（平和記念公園内）



会費納入のお願い

会費納入についてのお願いです。学会の活動は皆様の会費で支えられていますので、2020年度会費未納の方はご協力のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。なお、2月上旬に2021年度会費納入のお願いをメールでお送りしましたので、合わせてお願いいたします。

「クレジット決済」、「コンビニ決済」をご希望の方は、下記のマイページよりお手続きをお願いいたします。

URL <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページのURLは、会員情報管理システムの業務委託をしている株式会社国際文献社のものです。

- 「銀行振込」をご希望の方は、下記のいずれかの口座へお振込みをお願いいたします。

■振込先

◆ゆうちょ銀行

口座記号番号：00180-6-709632

加入者名：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガッカイ

※他金融機関からゆうちょ銀行に振込む場合

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）

店名：〇一九 店（ゼロイチキョウ店） 預金種別：当座 口座番号：0709632

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガッカイ

◆三菱UFJ銀行（金融機関コード：0005）

店名：上新庄支店（カミシンジョウ支店）

預金種別：普通 口座番号：0142708

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガッカイ

◆みずほ銀行（金融機関コード：0001）

店名：茨木 支店（イバラキ支店）

預金種別：普通 口座番号：1399483

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガッカイ

- 請求書・領収書（支払い後）は、マイページでオンライン発行できます。
- 請求書・領収書の郵送をご希望の方は、事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡ください。

※団体名でお振込みいただきますと、個人を特定できない場合がございますので、振込名に会員番号またはお名前をご入力いただくか、難しい場合は、振込内容を事務局までご連絡いただければ幸いです。
※所属が変わった方は、マイページにログインした際に、連絡先などを変更するようお願いいたします。

【過年度年会費を支払われていない方へ】

マイページでは、全ての年度の未納金額を合算した金額が請求されます。先に本年度以前の分のお支払いを希望される方は、先に郵送された払込用紙付請求書をご利用になるか、学会事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡下さい。

※会費のお支払いが確認できない場合、学会からの送付物を停止させていただく場合があります。また、会員資格停止の手続きを進めさせていただく場合があります。

ご不明な点は、事務局（secretariat@jsise.org）までお問合せ下さい。

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター
Tel:03-6824-9376 Fax:03-5227-8631 Email : secretariat@jsise.org



事務局より



会員専用ページのご案内

URL : <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページの URL は、会員情報管理システムの業務委託をしております株式会社国際文献社のものです。

■会員専用ページでは、以下のことができます。

1. 会員個人ページでの、現在の登録情報の確認・変更
2. 年会費納入状況の確認
3. 会費の納入、クレジット/コンビニ決済
4. パスワードの変更

会員種別、フリガナ、研究報告年間購読の登録等はマイページでは変更できませんので、お手数ですが JSiSE 事務局会員窓口 (secretariat@jsise.org) までご連絡をお願い致します。

ログインには、ID とパスワードが必要です。

パスワードをお忘れになった場合は、上記ウェブサイトにて照会できます。何かご不明な点がございましたら、JSiSE 事務局会員窓口 (secretariat@jsise.org) までご連絡ください。

今後とも教育システム情報学会の活動にご理解ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



入会のご案内

入会をご希望の方は、下記のサイトよりオンライン入会申込フォームにアクセスしていただき、お申し込みをお願いいたします。

URL : <http://www.jsise.org/admission/index.html>

☆キャンペーン☆

※現在、本学会開催の研究会等で、会場にて新規お申し込みいただいた方には、入会金を無料にさせて頂くというキャンペーンを行っております。
そちらも、合わせてご案内いただきますようお願いいたします。



新入会員のご紹介

下記の皆様が新しく入会されました。(2021年1月23日～2021年3月19日)

会員名	会員種別	会員名	会員種別
小池 武嗣	正会員	杉本 理	正会員(購読)
宮川 治	正会員		

(計3名)